

# 準師範・師範試験について

■ 準師範・師範試験の課題には、「実技」に加えて「小論文」や「理論」・「添削指導」があります。準師範・師範試験合格を目指して、日頃より課題内容についての関連書籍にふれて、知識を広めておきましょう。

## 書道検定 準師範試験について

■ 準師範試験の受験は、漢字・かな各部門で五段取得者が対象となります。  
 ※ペン字部門には、準師範はありません。

**認定の方法** 漢字・かな各部門に合格した場合、「漢字準師範」あるいは「かな準師範」の資格を認定します。

**受験の方法** 通信で受験できます。

**実施時期・結果発表** 応募締切日は五・九・十一・三月の十五日。結果は翌月中旬にお知らせします。合格者には「準師範認定証」(無料) を結果発表後の翌月初旬にお送りします。

### 検定内容

漢字部門概要	
課題一	課題二
<p>① 漢字かな交じり創作作品 半紙一枚「漢字かな交じり創作」の語句から選択してください。半紙の縦・横の使用は自由。                      ・構成を考えて自由に書いてください。ただし、草書と変体仮名は使用せず、漢字とひらがなを置き換えずそのまま書きます。文字を続けて書く場合は二、三文字までとし、落款も調和よく入れます。印(五分位)があれば押ししてみましよう。</p> <p>② 漢字創作作品 半紙一枚「漢字創作」の語句から選択してください。                      ・書体は自由。落款も調和よく入れてください。印(七分位)があれば押ししてみましよう。</p> <p>理論 空海の『風信帖』について                      ・原稿用紙八〇〇字程度、パソコン文字不可。図書館などで書道関係の書籍を調べてまとめてください。</p>	<p>理論 『三色紙』について                      ・原稿用紙八〇〇字程度、パソコン文字不可。図書館などで書道関係の書籍を調べてまとめてください。</p>

かな部門概要	
課題一	課題二
<p>① 漢字かな交じり創作作品 半懷紙一枚「漢字かな交じり創作」の語句から選択してください。半懷紙の縦・横の使用は自由。                      ・構成を考えて自由に書いてください。ただし、草書と変体仮名は使用せず、漢字とひらがなの置き換えずそのまま書きます。文字を続けて書く場合は二、三文字までとし、落款も調和よく入れます。印(二分位)があれば押ししてみましよう。</p> <p>② かな創作作品 半紙一枚「かな創作」の語句から選択してください。                      ・落款も調和よく入れてください。印(五分位)があれば押ししてみましよう。</p> <p>理論 『三色紙』について                      ・原稿用紙八〇〇字程度、パソコン文字不可。図書館などで書道関係の書籍を調べてまとめてください。</p>	<p>理論 『三色紙』について                      ・原稿用紙八〇〇字程度、パソコン文字不可。図書館などで書道関係の書籍を調べてまとめてください。</p>

## 書道・ペン字検定 師範試験について

■書道師範試験は、漢字・かな各部門とも五段あるいは準師範取得者が対象となります。  
 ■ペン字師範試験は、五段取得者が対象となります。

**受験の方法** 通信で受験できます。理論・実技・添削課題については、受験の申し込みをされた方に送付します。

**実施時期** 年一回、十一月に実施します。

**受験案内** 五月迄の検定の結果により、受験資格対象者にご案内いたします。

**結果発表** 翌月中旬にお知らせします。合格者には「師範認定証」(無料)をお送りします。

**試験内容**

書道師範			
理論	実技	添削	小論文
筆順、旧字体・書写体・草書体・変体仮名の読み、仮名の字源、古名跡の筆者名・時代、書道用語の説明	(半紙・半切作品) 楷書・行書・草書・隸書・かな・漢字かな交じり	大人の漢字・かな作品、小学生の毛筆作品。	(A) (B)どちらか一つを選ぶ。(A)「指導する立場で、書道の指導法について述べよ」。(B)「楷書の歴史とその特徴について述べよ」(原稿用紙に一、〇〇〇字程度、パソコン文字不可。)
ペン字師範			
理論	実技	添削	小論文
筆順、旧字体・書写体・草書体・変体仮名の読み、仮名の字源、漢字部首の名称	(B5またはA4の用紙) 楷書・行書・草書・かな・漢字かな交じり	大人、小学生のペン字作品。	(A) (B)どちらか一つを選ぶ。(A)「指導する立場で、ペン字の指導法について述べよ」。(B)「楷書体と行書体について述べよ」(原稿用紙に一、〇〇〇字程度、パソコン文字不可。)

# 創作 作用 語句集

◆漢字 半切(135cm×35cm)

◆かな 半切(135cm×35cm)

◆漢字かな交じり 半紙(33cm×24cm)・半懐紙(36cm×25cm)

※上記のサイズの内紙をご使用ください。

半紙または半切に、お書きください。書体は自由です。落款も調和よく入れます。  
半紙は三〇五分位、半切は六〇八分位の印を押してもよいです。(1分≒3mm)

大器晩成	老子	巨大な器ほどでき上がりが遅い。人も大人物は普通の人よりも遅れて大成する。
道法自然	老子	すべては自然にのっとっている。
富貴在天	論語	富貴は求めて得られるものでない。死生も天命に属する。
雲高氣靜	曹植	雲は澄み渡って高く、気も澄んで静か。
閒中至樂	蔡軾	閑暇こそ最上の楽しみ。
禍福無門	左傳	禍福のはいる門はもともと決まっているのではない。人間の幸不幸はどこからでもおとずれてくる。
氣新光照	王讚	気清新にして、光輝が明らかなこと。
萬古清風	李舒	限らない涼しい風。
雅人深致	謝安	高尚な人の奥深い趣。
樂善存心	文徵明	善を楽しみ忘れないように心にとどめる。
溫故知新	論語	故は古。古きをたずねて新しきを知る。学問のしかた。
心如鐵石	柳儉	心は鉄石の如く堅い。
上善若水	老子	最上の善は水の如く自然で万物を益するものである。
不如學也	論語	博く学び求めて飽きることがない。
澄心靜慮	趙子昂	心気を澄ませ念慮をはずめる。

<p>心清聞<sup>クシテ</sup>妙香<sup>ク</sup></p> <p>杜甫</p> <p>心は澄みきって妙なる香りがただよってくる。</p>	<p>萬里無<sup>シ</sup>片雲<sup>ク</sup></p> <p>禪林類聚</p> <p>見渡すかぎり一片の雲すらない。悟りの境地。</p>	<p>日日是好日<sup>レ</sup></p> <p>碧巖録</p> <p>精いっぱい生きていけば、一日一日が心やすらぐ日々である。</p>	<p>歲月不<sup>レ</sup>待<sup>レ</sup>人<sup>ヲ</sup></p> <p>陶淵明</p> <p>やるべき時にやっておかないと、時の流れは人を待つてはくれない。</p>	<p>清如<sup>キコトシ</sup>玉壺<sup>ノ</sup>氷<sup>ノ</sup></p> <p>鮑照</p> <p>心が玉壺の水の如く清い。</p>	<p>吾心在<sup>リ</sup>太古<sup>ニ</sup></p> <p>吳寛</p> <p>太古は上古。末世の反対。わが心は上古に在る如く素朴でけがれがない。</p>	<p>心與<sup>ト</sup>月俱<sup>ニ</sup>靜<sup>カナリ</sup></p> <p>李調元</p> <p>静夜、心も月も澄む。</p>	<p>人生貴<sup>ブ</sup>適意<sup>ヲ</sup></p> <p>張起岩</p> <p>適意は意にかなう。快適。</p>	<p>簡事<sup>ニシテ</sup>養<sup>フ</sup>精神<sup>ヲ</sup></p> <p>陸游</p> <p>雑事を避けて心気を養う。</p>	<p>江月照<sup>ラス</sup>我心<sup>ヲ</sup></p> <p>蘇軾</p> <p>川の上に浮かぶ月が私の心の中を照らす。心が月に清められる境地をいう。</p>	<p>室閑茶味清<sup>シ</sup></p> <p>周天度</p> <p>静かな部屋に茶の香が清らかにただよう。</p>	<p>閑身自在<sup>ノ</sup>心</p> <p>方岳</p> <p>閑はずか、雑事がないこと。静かな境遇、自在な心境。</p>	<p>靜中觀<sup>ニル</sup>物化<sup>ヲ</sup></p> <p>陳必復</p> <p>物化の語は莊子にあり、物象の変化。静境中に物の変化をみる。</p>	<p>洒落高秋氣<sup>ノ</sup></p> <p>楊雲翼</p> <p>澄んだ秋気の如く洒落な人品。</p>	<p>延年壽<sup>ベテ</sup>千秋<sup>ナレ</sup></p> <p>甄后</p> <p>千年までも命長く生きること。</p>
---	---	---	--	---	---	---	---	--	---	--	---	---	---	--

雲歸時帶雨數點木落復添山一峰

陸游

山に帰り行く雲は時にばらばらと雨を降らせ、林の木の葉が散って、もう一つの山の姿があらわれた。

快日明窓閒試墨寒泉古鼎自煎茶

陸游

よく晴れた日、明窓のもとで静かに書作を試み、冷泉の水を酌み古鼎に茶をにる。

志正則衆邪不生心靜則衆事不躁

王符

志を正しく持っておればもろもろの邪念は生ぜず、心が静かならば諸事万端うまくゆき紛乱を招かない。

閑爲水竹雲山主靜得風花雪月權

邵雍

閑静こそ、山雨風月の美をほしのままにするものだ。

烟色春歸楊柳底雨香紅入杏花初

朱希晦

楊柳がけむって春のたち帰ったことが知られ、雨も香って杏の紅花が咲きそめた。

雨意忽生桐葉外秋光多在木犀中

劉祁

桐の葉のあたりに、はしなくも雨気がわき、もくせいの花に秋光がただよう。

美花修竹隨時勝流水青山繞屋春

劉詵

美しい花と高い竹は時と共にすぐれ、家の周囲の青山や流水は今や春色ゆたかである。

夏雨染成千樹綠暮風散作一江煙

錢惟善

夏の雨は樹々の緑をよみがえらせ、夕暮れの雨は川一面にもやを敷く。

持己不可不嚴明與人不可不和氣

陳繼儒

自己はきびしく律しなければならぬが、人と交わるには和気を以てせねばならぬ。

涼聲度竹風如雨碎影搖窓月在松

文徵明

竹林を吹き渡る風声は雨の如く、窓にうつる松影は砕けうごいて月が松にかかっている。

靜定工夫忙裏試和平氣象怒中看

林希逸

心をしずめる工夫は忙しい境地において試みよ。和平な氣象は情に激した時に思い求めよ。

山林受用琴書鶴天地交遊風月吾

葉菌

琴・書・鶴は山林の楽しみになくはならぬもの。天地間の友は、風と月と吾。

千峰鳥路合梅雨五月蟬聲送麥秋

李嘉祐

鳥路は鳥だけしか通わぬような山路。山々はつゆ模様、五月の蟬は麦の収穫期を送ってなく。

竹梢露滴驚殘夢荷蓋風翻送早涼

陸游

竹の枝に宿る露がしたたって夢からさめ、蓮の葉に風が吹いて涼しさを送って来る。

小窓半夜青燈雨幽樹一庭黃葉秋

真山民

夜半、燈火ともる窓辺に雨そそぎ、こんもりした庭樹は黄葉している。

かな創作

半切にお書きください。変体がなの使用可・漢字のかな変換可・落款は調和よく入れるか、五分位の印を押ししてもよいです。

うぐひすの笠おとしたる椿かな

松尾芭蕉

落椿を見て、鶯が笠を落としたのであらうと興じた句。古歌には梅の花を鶯の笠と詠んだ例が多い。

うすぐもり都のすみれ咲きにけり

室生犀星

曇り空の下、煤煙にうすよこれた都会の庭隅に、すみれが可憐に咲いているのを見出し出した驚きの句である。

なのはなや昼ひとしきり海の音

与謝蕪村

海辺の菜の花畑、うららかな春昼をひとしきり波の音が高く聞こえてくる。

草の葉を落るより飛螢哉

松尾芭蕉

草の葉から落ちるとみるやいなや、光跡をひきながらとぶ螢に興を感じての句である。

遅き日のつもりて遠き昔かな

与謝蕪村

春の日を物思いにふけていると、遠い昔の日のことのみがなつかしくてならない。

なつかしき枝の割目や梅の花

榎本其角

今年も梅の老木がみごとに花をつけた。古木の枝に出来た割目もみなれたままでなつかしいことだ。

かりそめの恋をする日や更衣

与謝蕪村

縮入れから軽快な袷に着更えてすつきりした気分になると、ふと誰かに恋でもしてみたいところがおこる。

朝顔に釣瓶とられてもらひ水

加賀千代尼

井戸の釣瓶に朝顔がからみ花を咲かせているので、水を汲むことが出来ず、そのままにして近所からもらい水をしたことだ。

木枯やたけにかくれてしづまりぬ

松尾芭蕉

今まで吹きあれていた木枯が竹林に吹き入ると、竹にかくれたようにひっそりと静まったことだ。

しら露をこぼさぬ萩のうねりかな

松尾芭蕉

萩の花枝の、しなやかにうねるさまが巧みにいとられてる。

浅みどり花もひとつに霞みつつおぼろに見ゆる春の夜の月

新古今集 菅原孝標女

薄い緑色の空に、桜の花も一つになって、区別もなく霞み霞みしていて、おぼろに見える、春の夜の月よ。

池水にみぎはのさくら散りしきて波の花こそさかりなりけれ

千載集 後白河院

池の水に、岸の桜の花が散って一面に浮かんで、波の花の方はいま花ざかりである。

うちなびき春は来にけり青柳のかげ踏む道に人のやすらふ

新古今集 藤原高遠

(うちなびき) 春はきたことであるよ。都大路の街路樹の柳も青葉が萌え、道に落とすその影を踏んで行き来する人が、そこで休息している。

梅が香にたぐへて聞けばうぐひすの声なつかしき春の山ざと

山家集 西行

梅の香にともなわせて聞くと、うぐいすの鳴く声になつかしい春の山里であるよ。

うぐひすや堤をくだる竹の中

与謝蕪村

川の堤を下りようとするとする時、ふと竹藪の中から鶯の声がきこえて来たのである。

しら梅やわすれ花にも似たる哉

与謝蕪村

白梅がほつと咲き出したさまは、忘れ花(季は冬)にも似た風情である。

卯の花や水の明りになく蛙

小林一茶

卯の花が白く咲いている。夕闇が迫る川辺の水明りに蛙が鳴いている。

空豆の花に追はれて更衣

小林一茶

白い空豆の花が咲いている。花にせきたてられる気持で夏の衣にあらためたことだ。

かんこ鳥しなの、桜咲きにけり

小林一茶

一時に花開く、信濃の春遅い郷土色をとらえている。かつこうの鳴くころの遅桜ははなやかであるが寂しい。

湯けぶりも月夜の春と成にけり

小林一茶

湯宿のそここに立ち登る湯けぶりも、なつかしくながめられる春の月夜となつたことだ。

路たえて香にせまり咲くいばらかな

与謝蕪村

夏草生い茂る路をふみわけてゆくと、白く咲きみだれた茨の香りがせまるようにただよっていた。

此道や行人なしに秋の暮

松尾芭蕉

行人の絶えた秋の夕暮の道をよんだものであるが、裏に俳諧の道を共に歩くものなのいを歎く心が寓されている。

菊の香やならには古き仏達

松尾芭蕉

重陽を奈良で迎え、菊の芳香に、古郡の古い仏達を思い出した句である。

いくたびも雪の深さをたづねけり

向井去来

早朝の寒さに身も心も縮まっている。有明月が出ているといわれてもふりむいてみることも出来ないほどだ。

薄い緑色の空に、桜の花も一つになって、区別もなく霞み霞みしていて、おぼろに見える、春の夜の月よ。

池の水に、岸の桜の花が散って一面に浮かんで、波の花の方はいま花ざかりである。

(うちなびき) 春はきたことであるよ。都大路の街路樹の柳も青葉が萌え、道に落とすその影を踏んで行き来する人が、そこで休息している。

梅の香にともなわせて聞くと、うぐいすの鳴く声になつかしい春の山里であるよ。

かきくらしなほふる里の雪のうちに跡こそ見えね春はきにけり

新古今集 宮内卿

こころあらばたつねて来ませ鶯のこづたひちらす梅の花見に

良寛歌集 良寛

この里に手まりつきつ子供らと遊ぶ春日はくれずともよし

布留散東 良寛

さもこそは春はさくらの色ならめうつりやすくも行く月日かな

新勅撰集 藤原実氏

散りぬればにほひばかりを梅の花ありとや袖に春風の吹く

新古今集 藤原有家

散ればこそいとど桜はめでたけれうき世に何か久しかるべき

伊勢物語 在原業平

聞きたびに珍らしければほととぎすいつも初音の心地こそすれ

金葉集 永緑

衣手にすすしき風をさき立てて曇りはじむる夕立の空

風雅集 宮内卿

夏草のしげみが下の埋れ水ありと知らせてゆくほたるかな

新葉集 後村上天皇

夕立の雲飛び分くる白鷺のつばさにかけて晴るる日の影

風雅集 花園天皇

秋の夜に雨ときこえて降るものは風にしたがふ紅葉なりけり

拾遺集 紀貫之

おしなべて物をおもはぬ人にさへ心をつくる秋の初風

新古今集 西行

天のはら雲ふきはらふ秋風に山の端たかくいづる月影

統拾遺集 後鳥羽院

草の葉にはかなく消ゆる露をしも形見におきて秋の行くらむ

金葉集 源俊頼

霜さゆる庭の木の葉をふみ分けて月は見るやととふ人もがな

千載集 西行

うづみ火のあたりは春の心地して散りくる雪を花とこそ見れ

後拾遺集 素意

空を暗くして、今もなお雪の降りつづけている故里の雪の中に、その足跡は見えないが、春は訪れて来ていることだ。

お気持ちが動きまじらおたずねください。うぐいすが木木を伝って花を散らすわが庭の梅の花見に。

この里で手鞠をつきつき、子どもたちと遊ぶ春の日は暮れないでもよい。

春という季節は、桜の花の色なのである。それで花が散りやすいように、春の月日はやく過ぎてゆくことよ。

枝に咲く花は散ってしまったので、袖の移り香だけが残っていて、梅の花が咲いていると思つてか、この袖に、春風が吹く。

惜しまれて散るからこそ、いつそ桜はめでたいのだ。このつらい世の中に、命の久しく続くものは何があるうか。

声を聞きたびに、新鮮に感じられるので、ホトトギスは、いつ聞いても初音を聞くような心地がすることだ。

袖のあたりに、涼しい風を先ぶれとしてまず吹き送って来て、次第に曇りはじめて行く、夕立の空であるよ。

夏草の茂みの下に隠れて流れている水のうえを、ここに埋もれ水があると知らせるように、飛んでいく螢よ。

夕立を降らせた雲がまだ残っている中を飛んでいく白鷺、その翼に夕日の光がさらりと光って、空は晴れていく。

秋の夜に、雨が降るかと思つて降るものは、秋風に散る紅葉であるよ。

おしくるめて、物に感動しない人にまでも、あわれを知らせる、秋の初風であるよ。

大空の雲を吹きはらう秋風に、山の端から高くなる、さやかな月よ。

はかなく消えてしまふ露を草の葉の上に形見として置いて、秋は去って行くよ

霜が冴え冴えと降りた庭の、散り敷いた木の葉を踏み分けて、今宵の美しい月は見えていますか、と尋ねて来てくれるような人がいてほしいものだなあ。

埋み火の近くは、ほんのり暖かく春のような心地がして、折から散りかかってくる雪を、花と思つてみることだ。

半紙または半懐紙（縦・横自由）に構成を考えて自由に書きます。ただし、草書と変体仮名は使用せず、漢字とひらがなを置き換えずそのまま書きます。文字を続けて書く時は二〜三文字までとし、落款も調和よく入れます。印を押してもよいです。

意志のある所には道がある	ことわざ
命に過ぎたる宝は無し	ことわざ
光陰矢の如し	ことわざ
日に新たなり	ことわざ
人事を尽くして天命を待つ	ことわざ
和を以て貴しとなす	聖徳太子
青年よ大志を抱け	ワイリアム・スミス・クラーク
芸術は言葉をもたぬ詩である	ホラチウス
他人は自分の心を映す鏡である	エマーソン
発明の秘訣は不断の努力にある	ニュートン
何を求める風の中ゆく	種田山頭火
今日の道のたんぽぽ咲いた	種田山頭火
たくほどは風がくれたる落葉かな	小林一茶
涼風 <small>すずかぜ</small> の曲がりくねって来たりけり	小林一茶
空も星もさみどり月夜春めきぬ	渡辺水巴
こがらしや海に夕日を吹き落とす	夏目漱石





〒186-8001 東京都国立市富士見台2-36-2 ☎042-572-3151 (代表)

ホームページ <http://www.n-gaku.jp>

書道・ペン字検定課題集 (保存版) 2022. 4月改訂

©NHK 学園 Japan

※ご記入いただいた個人情報は、成績管理等に使用します。また、NHK 学園書道・ペン字検定や書道展、スクーリング、通信講座のご案内に使用させていただきます。